

平成27年度 輪之内町立福東小学校 学校評価書

学校の教育目標	豊かな心 たくましい力のある子 ～考える子 仲よくする子 やりぬく子～
経営の重点	鍛える

評価基準
 A：実践し、効果をあげることができた。
 B：実践し、一応の効果をあげることができた。
 C：実践し、僅かだが効果をあげることができた。
 D：実践したが、効果をあげることができなかった

町の重点	評価の観点	評価	学年末の成果	来年度への課題と改善策	学校関係者評価（意見）	
【学校経営】 全教職員が協力して活力ある学校経営をする	1 ◎ <特色ある学校> 保・小・中の一貫性のある指導を充実させ、各学校の児童生徒や地域の特色を生かした創意ある教育課程を編成・実施する。	B	・国語科を中心にした言語活動の充実に関して、福東小ならではの活動が引き継ぎ行われている。国語の指導としては先進校といえる。町研究大会の発表校として、創り上げてきた国語科における研究をまとめることができた。	・保育園や中学校の先生のお話を聞く機会があるとよい。	・学校の教育目標に向かって、教師も子どもも一丸となって取り組んでいる。 ・学校だよりが頻繁に出されるので、学校の様子がよく分かる。 ・ほぼ毎月、命を守る訓練が実施されていてよい。 ・体格の大きい子は地震の時に机の下に潜れない。ヘルメットや非常食の常備など、町と連携をしていくとよい。	
	2 <開かれた学校> 学校の教育方針や指導改善に向けての方針を受けた教育活動を積極的に公開し、学校評価や児童生徒の実態等を学校経営に生かし、開かれた学校づくりを推進する。	A	A	・学校だよりや学級通信などを通して、学校の教育活動を伝えることができた。保護者アンケートを実施し、学校運営に反映させた。 ・運動会や校区文化祭などの行事によって、地域との関わりが多くもてた。参加も多い。	・学校のホームページの充実。学年の様子も更新頻度を上げたい。 ・いもほり集会や、大豆の収穫等で、もう少し地域とのかかわりが持てるとよい。	
	3 <危機管理> 児童生徒の命を守りきることを最優先に考え、全教職員が危機意識をもって一人一人の安全・安心の確保に努め、学校内外の環境を見直すとともに、家庭・地域社会・関係機関等との連携強化を図り、適切かつ確実な危機管理体制を確立する。	A	A	・命を守る訓練には、全職員が危機意識をもって参加することができている。 ・不審者発生時は全職員で登下校指導した。 ・毎日、登下校時、生徒指導の先生がパトロールを行っている。	・音響や煙体験を使った訓練を行う。 ・不審者に対して敏感になっている。特に外国の方に対して、児童が誤った偏見をもたないよう、人権教育とも関連させて指導していく。	
【研修】 自己の課題を明確にし、主体的に研修を進め、確かな指導力を身に付ける	4 ◎ <校内研修> 校内の主題研究を組織的・計画的に推進するとともに、教職員としての専門性や確かな指導力を高める研修を主体的に行う。	A	A	・町研に向けて、学校体制で研究を進めた。また、授業後の研究会で活発な意見交流がなされ、教科に対する理解が深まった。 ・夏休み等に伝達研修を行うことで、資質向上に努めることができた。	・児童の学力につながっているのか、検証を行う。 ・3学期の説明文でも手を抜かず実践を積み重ね、児童の技カードも確実に蓄積していく。	・町教育研究発表会では、研究の成果を発表でき、他校のモデルとなった。 ・ICTの活用研修を積極的に進めてほしい。
	5 <個人研修> 経験年数や職務に応じて、一人一人が個人研修課題を明確にし、具体的な目標と方策をもち、教職員としての資質や能力を高める研修に主体的に取り組む。	B	B	・経年研修や職務に応じた研修に参加する教員が多く、研修を通して学んでいる。 ・新任特別支援担任研修の公開授業も、積極的に若い先生方が参観され、お互いにより学びができた。	・いろいろな面から受けた指導を整理して、来年度の目標や具体的な方策に生かしていきたいが、知識として頭に入れたことを、実態の多様な子どもに対し、具体的な取り組みとしてどのように実践するのが難しい。	
	6 <情報研修> 分かる授業のためのICTの効果的な活用法及び情報モラル等、情報活用能力の向上に関わる実践的かつ効果的な研修を行う。	B	B	・日常的にICT機器が使われている。地区懇談会では、保護者向けに最新の情報モラル研修会を開くことができた。 ・毎月の情報機器活用情報調査の結果を職員に知らせ、活用回数は増えている。	・よい活用の仕方を共有し、より効果的にICT機器の活用がなされるようにする。 ・保護者向けの情報モラル研修会を開く。 ・もっと使いやすいデジタル教科書の導入が望ましい。	
【教科指導】 基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育てる	7 ◎ <基礎基本の定着> 指導目標と評価規準を明確にした指導計画のもと、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得とそれらを活用し、思考力・判断力・表現力を育てる授業を実施する。	A	A	・全国学力学習状況調査で福東小の学力の向上が証明された。 ・朝活動の時間のドリルタイムや漢字・計算検定に向けた取組など、丁寧な指導ができた。 ・深めの発問が児童にも定着してきた。	・個人差が広がっているのではないかと感じる。家庭に協力が期待できない、定着していない子への配慮を一層行う必要がある。 ・やらせっぱなしでは力がつかない。教師がどれだけ見届けているか。そこに重点を置く。	・元気がよく発表している。1学期より発表の声が大きくなった。 ・聞く姿勢が非常に良く、メモをとりながら話を聞く姿もあった。 ・学習が行き詰まった子への先生のフォローがよくできている。 ・掲示物がきちんとして見やすい。 ・デジタル化が進んでいる。
	8 <個に応じた指導> 指導内容の系統性、発展性や児童生徒の発達の段階を踏まえ、一人一人の学力や学習状況に応じた多様な指導方法や体制、評価を工夫改善してきめ細かな指導をし、確かな学力の定着を図り、その状況や実態を見届ける。	B	A	・特に高学年算数の少人数指導で、きめ細かな指導を行い、児童に力をつけることができた。	・単元毎の一人一人の基礎・基本の定着の程度を目に見える形で把握する必要がある。どの子には、どんな指導法が有効だったのかを記録し、確実に引き継ぎたい。 ・中学年の算数にもT2をいれたい。	
	9 <学習集団づくり> 児童生徒の発達の段階に応じた各教科の学び方を身に付け、学び合う学習集団へと質を高めるとともに、学習習慣を確立する指導を充実する。	A	A	・福東小の学び方が児童に身につけてきた。 ・深めの発問の後は、ペア交流をしたり全員挙手をしたりするという流れが共通理解されている。 ・話す・聞くという姿勢が定着してきた。	・教師のしゃべりすぎをなくし、児童が主体となって話し合いが進行するよう学年に応じた指導をする。	
【道徳教育】 自己を見つめる力と他を思いやる心を育てる	10 <全教育活動を通じた道徳教育> 道徳教育推進教師を中心として、道徳指導別業を活用し、全教育活動を通して道徳教育を充実させる全体計画や指導計画を工夫改善する。	B	B	・道徳と日常、行事をつないだ指導ができています。	・別業が活用できているかは疑問。身近な活用法を共通理解していく。 ・「わたしたちの道徳」「別業」の活用。	・地域での挨拶の声が、だんだん大きくなってきた。 ・いじめ防止のために、道徳教育、心の教育にさらに力を入れてほしい。
	11 ◎ <道徳の時間> 道徳の時間のねらいを明確にし、道徳的価値の自覚を深め、道徳実践力が育成されるよう、指導過程や指導方法を工夫する。	B	B	・日常生活や行事等と、道徳の時間をつないだ指導を意図的に行うことができた。 ・県教育委員会資料の「打ちかつ心」を用いた授業実践はよかった。	・さらに児童の道徳実践力につながる指導を工夫する。	
	12 <心を育む体験活動> ふるさと教育や「あいさつ・美化・ボランティア」への取組を通して、自己を見つめ、他を思いやる指導を充実する。	B	B	・挨拶キャンペーンや挨拶選手権を行い、登校の挨拶の声が大きくなり、地域の方に向かって挨拶ができるようになってきた。 ・挨拶と地域行事をかかわらせて、道徳教育を行うことができた。	・児童同士のかかわりや見つけの視野を広げ、学級から全校へと広げていく。 ・教員も常に、輝きカードを携帯して、「気づいたときにその場で書く」くらいにする。 ・取り組み前、中、後の指導を充実させる。	
【小学校外国語活動】 外国語を通じて、コミュニケーション能力の素地を養う	13 ◎ <指導計画・指導体制> 児童の実態や学習段階を考慮した指導計画を工夫改善し、一人一人にコミュニケーション能力の素地が養われるよう指導を充実する。(小)	B	B	・担任が主導でALTと協力しながら、授業を進めることができた。 ・ALTと協力し、効果的な指導を思考し、一人一人が、英会話を通じて、伝わる喜びを感じることができた。	・トピックを充実させ、異文化に触れる機会を増やす。 ・ALTとの打ち合わせの時間を確保する。	・ゲームを通して、抵抗なく英語学習に入っていけるので、続けてほしい。
	14 <指導過程> 積極的に外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさを体験する活動を工夫する。(小)	B	B	・学習内容とリンクさせたゲームで、楽しく単語や文法を身につけさせることができた。 ・ゲームやインタビューなどを通して、児童が外国語を使う機会が増えた。	・ゲームのマンネリ化防止。 ・教材の確保（CD 絵カードなど） ・担任の英語力の向上。できるだけ英語で指示がだせるようにする。	
【総合的な学習の時間】 探究的な学習を通して、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。	15 <全体計画・指導計画> 小・中学校の接続や各学校の目標を踏まえ、学習のねらいや内容、各教科等との関連を一層明確にし、課題意識が連続発展するよう全体計画や指導計画を工夫改善する。	B	B	・防災教育では、アルミ缶を使った非常食づくりなどを実施し、昨年度の反省を生かしてよりよい指導計画に改善されている。	・今年度の活動の足跡を必ず残しておき、来年に生かされるようにする。 ・単年度の担任では、計画、準備等が難しい。 ・児童の課題意識がつながっていくような全体計画に見直す。	・発表をクイズ形式にするなど、参観者も交えて、和やかな雰囲気で開催していた。 ・分からないことはネットに頼りがちになるので、注意が必要である。
	16 ◎ <探究的な学習> 身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、総合的に動かせるよう、体験活動と言語活動を意図的に設定し、探究活動を充実する。	B	B	・国語と関連させた言語活動を行うことができた。	・年間計画を確実に立てて、見直しをもった指導が必要。	
【特別活動】 所属感を高め、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる	17 <指導と評価> 児童生徒の自発的、自立的な活動（いじめ問題への取組等）を展開し、一人一人の児童生徒が自分に自信をもち、自分のよさや可能性を発揮してよりよい生活や望ましい人間関係を築こうとすることができるよう指導と評価を工夫改善する。	A	A	・全校でいじめについて考え、いじめゼロ宣言を更新するなどできた。 ・各委員会の活動が少しずつ工夫することができるようになり、児童の主体性が育ってきた。	・些細なトラブルや気づきでも、職員全体で把握・共通理解する必要がある。 ・当番活動に終始している委員会もあるので、児童が意欲的に取り組むことができるような指導が必要である。	・福東小学校の7つの伝統を大切にしたり、学級目標の達成をめざして取り組んだりする中で、仲間との絆が深まっていると感じる。
	18 ◎ <学級経営> 学級の諸問題を解決する活動を通して、望ましい人間関係や学級集団としてのまとまりを育て、学級経営を充実する。	B	B	・各学級で起きた問題に担任教諭だけでなく、生徒指導他数名の教諭で対応することで、学級全体を取りこぼしがなく指導できていた。 ・学級活動では、特に児童中心の話し合い活動を充実させることができた。	・行事を点で終わらせるのではなく、1年を見通して線をつなぐ指導を心掛ける。	

町の重点	評価の観点	評価	学年末の成果	来年度への課題と改善策	学校関係者評価（意見）	
【生徒指導】 共感的な理解を徹し、自己指導能力を育てる	19 ◎ <生徒指導（教育相談）体制>不登校や問題行動（いじめ、暴力、ネットトラブル、万引き、怠学等）といった生徒指導上の諸問題に対して、全教職員が危機意識をもち、日常的な教育相談やアンケートなどを通して未然防止や早期発見に努め、家庭や地域・関係機関等との連携を充実させる中で組織的に対応する。	A	・不登校傾向の児童に対し、職員間で連携をしっかりととり、SカウンセラーやS相談員を利用しながら、対応をすすめていくことができた。 ・毎月のアンケートで悩みに寄り添った。 ・何か起こった時は全校体制で解決した。	・より素早い報告・連絡・相談 ・若手の職員が多くいる分、保護者に指導・助言的に接することができる職員が少ない。保護者との懇談には、教頭も同席する。 ・SCや相談員にもっと活用する。	・ランドセルがきちんと収まっている。落ち着いている証拠である。 ・いじめに対する指導をきちんとしてもらえていてありがたい。 ・いじめは芽が小さいうちにつぶすことが大事である。集めた情報は出せる範囲で出してほしい。協力は惜しまない。	
	20 <学年・学級経営>一人一人が個性を發揮し、存在感・所属感・達成感を味わい、望ましい人間関係を築くことができるよう、児童生徒の関わり合いを大切にしながら学年・学級経営と授業を全校体制の指導により充実する。	B	B	・担任のこだわりがある学級経営ができていく。 ・教科担任や補欠が入った者が感じた児童の些細な変化や学級の雰囲気について、担任に伝えることで、情報共有を図っている。	・教育相談の時間をしっかりと確保し、一人ひとりとじっくり話をする機会をとる。 ・学級の核となる活動を位置付ける。 ・担任主導の学級経営から、児童主体に移行していく。	
	21 <生命尊重・倫理観・規範意識>全教育活動を通して、一人一人が自他の生命を尊重し、倫理観や規範意識を向上させることができるよう指導を徹底する。	B		・不審者の概念や、危機意識が少しずつもてるようになってきている。	・いまだに、危機意識の薄い児童や保護者もいる。もっと危機管理能力や自分の身をどう守るかを考えさせる必要がある。	
【進路指導】 自己の生き方を考え、主体的に進路を選択できる能力や態度を育てる	22 ◎ <勤労観・職業観>望ましい勤労観・職業観が育つよう、他の教育活動との関連を図り、ねらいを明確にした体験活動（職場体験、係活動、清掃・奉仕活動など）を位置づけるとともに、事前や事後の指導を充実する。	B	B	・清掃活動、係活動を通して、勤労の大切さや達成感を感じる体験をさせることができた。 ・学年部掃除や、縦割り掃除を導入することによって、児童にとってよい刺激になった。児童が主体となって活動することができた。	・成果と課題を明らかにし3学期につなげる。 ・一定期間は、同じ掃除場所を同じメンバーでやった方が、掃除の技術向上にもつながるのではないか。指導者も統一して、児童が混乱しないようにする。	・掃除に取り組む姿がよい。玄関のタイルを膝をついて一つ一つ拭いている。
	23 <ガイダンス>一人一人が自己の能力・適性や多様な可能性を理解し、将来の夢や希望の実現に向けて自分のよさを生かす主体的に進路選択ができるよう、個に応じた正確な情報提供や説明及びそれらに基づいた学習等のガイダンスの機能を充実する。（中）	B				
【健康教育】 運動に親しみ、進んで健康で安全な生活を営む態度を育てる	24 ◎ <保健・安全・食>児童生徒の体力・運動能力、食生活等の生活習慣、心身の健康状態及び安全に対する意識・行動を的確に把握するとともに、他の教育活動との関連を踏まえて「健康・安全・食」に関する指導を工夫改善する。	B	A	・各学年の食育授業や歯科指導は、年間を通して順調に進んでいる。 ・養護教諭と連携して、保健関係の授業を行うことができた。座学だけでなく、実践的な体験も取り入れることができた。	・日常生活の中での指導も大事にしていく。	・地震、不審者対応など、安全を最優先にした取組がなされている。さらに進めていただきたい。 ・AEDをいつでも使えるようにしているが、子どもたちも場所を知って使えるようにしていくとよい。
	25 <運動推進>児童生徒が課題や願いをもって積極的に体力づくりに取り組み、日常的な運動実践の場や機会を充実する。	A	A	・朝マラソンを毎日行うことで、走る習慣が身に付き、健康な体づくりに努めることができた。 ・マラソンだけでなく、縄跳びにも取り組み、児童の意識も高まっている。	・マラソンや縄跳びに「黙々と」行う指導を行う。 ・休み時間にも自主的に運動に取り組めるようにする。そのために、運動を紹介したり、はじめは教師も一緒にいたりしていく。	
	26 <未然防止>児童生徒の健康・安全を守りきるために、学校と家庭、地域社会が連携した組織体としての総合的な力を発揮し、健康被害等の未然防止に万全を期す。	A	A	・アレンジャーの活用を通して、アレルギー事故の未然防止に努めた。 ・学校環境衛生活動奨励賞をいただくなど、日々行っている活動に成果がみられた。	・マンネリ化を防ぐこと、保護者チェックを有効に活用していく。 ・教員の環境衛生に対する意識が個人差が大きく、十分でない。呼びかけを強化していく。	
【特別支援教育】 一人一人の教育的ニーズに応じ、自立し社会参加するための基盤となる力を育てる	27 <校内支援体制>特別支援教育コーディネーターを中心として、保育園や関係機関との連携を図りながら、ケース会議等で児童生徒理解を図り、全教職員が組織的に指導する。	A	A	・職員会でも特別支援の交流の時間をしっかりと取るなど、全職員で共通理解しようという体制が強い。 ・担任だけでなく、多くの職員で関わり支援する体制ができていく。	・来年度への引き継ぎに向けて、どのように対応していくかの方針を定めていく必要がある。 ・就学指導をする際や、特別支援の児童の保護者と懇談をするときは、CDや教頭が立ち会い、学校としての支援体制を明らかにする。	・特別支援学級と通常学級との交流が好ましい形で進められていて、社会性を育み人間性を養うものになっている。
	28 ◎ <個別の支援>保護者や関係機関との連携の下、一人一人の教育的ニーズに応じて「個別的教育支援計画」及び「個別の指導計画」を活用し、一貫した支援を行う中で、一人一人が能力や特性を發揮し、主体的に活動できるように指導内容や指導方法、評価を工夫改善する。	B	B	・保護者とも相談しながら、個別の支援計画を作成し、見直すことができた。	・学校の実態と家庭の実態、保護者の思いを合わせて支援していけるよう、専門家の意見も取り入れながら進めていく。	
	29 <交流及び共同学習>特別支援学級等と通常の学級の児童生徒との交流及び共同学習を計画的・継続的に行い、社会性や豊かな人間性を育てることができるよう指導を充実する。	B		・特別支援学級等と通常の学級の児童生徒との交流及び共同学習が日常的に行われている。	・情緒学級の児童の変容から分かるように、個別の支援と共に、同学年だけでなく他学年の児童や、教員との関わりをもつことがとても重要である。	
【人権教育】 不合理な差別をなくし、人権を尊重する温かい人間関係を醸成する	30 <人間関係の醸成>互いのよさを認め合い、温かく思いやりのある望ましい人間関係を醸成する指導を工夫改善する。	B	A	・「思いやりの花集い」を通して、全校的にお互いのよさを認め合うことができた。 ・思いやりカードを継続して行うことで、人権に対する意識を継続していく。	・「思いやりカード」の数や質が向上するよう、担任も声かけをする。	・「よいこと見つけ」など、全校をあげて子どものよさを認めていこうとしている。 ・いじめに対する指導をきちんとしてもらえていてありがたい。
	31 ◎ <いじめ・差別の解消>いじめや差別を許さない学校・学級づくりに徹し、全校が一丸となった取組を継続的に行う。	A	A	・生徒指導主事を中心に、全職員で共通理解を図り、指導できた。児童間の些細な変化やトラブルにもすぐに対応することができた。 ・「いじめゼロ宣言」として、学校全体でいじめを許さないという取り組みができた。	・気づいたことを職員間で交流する機会をもっと作れるとよい。 ・わずかな問題行動も見逃さず、指導体制を強化していく。些細なことでもすぐに生徒指導等に報告する。	
【情報教育・図書館教育】 児童生徒の情報モラルを高め、情報化社会に対応できる情報活用能力を育てる ・日常的に読書に親しみ、教養・価値観・感性を高めようとする態度を育てる	32 <情報活用能力>情報活用能力における児童生徒の実態を把握し、段階表に基づいた系統的な指導をする。	B	B	・各学年に応じた情報活用能力を段階表をもとに指導している。	・活動の内容や、活動の時期を打ち合わせや会議の機会に提示し、より積極的に活用できるようにする。	・プレゼン資料を子どもが自分で作成しているところがすごい。 ・情報モラルに関しては、親の教育も必要である。 ・図書館教育が充実している。その成果として、西濃地区学校図書館教育賞で最優秀賞を受賞できた。 ・図書館教育の取組について、保護者にもPRしたい。
	33 ◎ <情報モラル>情報モラル（SNSを介したネットトラブル等）について、意図的・効果的な指導を行う。	B	B	・全校で、本校の実態に応じた情報モラル教育を行うことができた。 ・全校で集まって話を聞いたり、担任が学級の実態に応じて話したりと、情報モラルについての指導を定期的に行うことができた。	・児童だけでなく、保護者にも啓発する必要がある。 ・児童だけでなく、保護者にも啓発する必要がある。	
	34 <図書館教育>学校図書館を利用しやすく整備し、図書計画的な活用や読書活動の推進に取り組む。	A		・児童の委員会での創意工夫で新たな活動も加わり、図書館活動の活性化につながった。 ・図書館祭りやビブリオバトルなどから、全校が読書に親しむことができた。 ・児童の読書量が増加している。	・国語以外の教科での活用を増やしていく。 ・貸出冊数は増えたので、読書の質に目を向けていく。 ・ビブリオバトルをいかに継承、進化させていくか。	
【ふるさと教育】 「ふるさと輪之内」に学ぶ態度と輪之内を愛し、誇りに思う心を育てる	35 ◎ <ふるさと学習>地域を知り、理解するための活動や地域人材を活用した授業を展開するなど、地域に根ざしたふるさと学習を積極的に推進する。	B	B	・文化祭で、講座を開き、その講師として地域人材を活用することができた。 ・総合の授業で講師を招き、学ぶことができた。	・普段の授業でも積極的に取り入れる。 ・クラブ活動の講師を増やせないか。 ・地域おこしの活動をされている方（ふくろうの会 本戸の田んぼアート など）の話を聞く機会がもてるとうい。	・「生活科・総合学習発表会」では、各学年のテーマに応じた学習や体験を通して学んできたことを、聞き手に分かりやすく発表していた。 ・地域の絆も大切である。地域のよさが忘れられていく気がする。
	36 <国際交流>国際交流などを通して、グローバル化に対応した豊かな語学力・コミュニケーション能力、主体性・積極性、異文化を理解する力等を身に付けられるようにする。	B	B	・ALTと授業以外の給食や休み時間など、積極的な交流ができた。	・校内に外国籍の子や帰国子女の子もおらず、国際交流の機会をもつ必然性が児童にもない。こちらで設定するしかない。	
【家庭学習の充実】	37 <家庭学習習慣>家庭学習の手引きを活用し、望ましい家庭学習の習慣の定着を図る。	A	A	・家庭学習の時間の確保として、強化週間をもうけ、学習時間の向上を図ることができた。 ・学級通信を活用して、家庭学習において気を付けてもらいたいことをこまめに伝えた。 ・担任の宿題の見届けが定着につながった。	・ドリル学習に終始せず、学力向上のために家庭学習内容を充実させる。自主学習の質も高めていく。 ・高学年になるほど家庭学習ポスターの利用が少なくなる。利用の仕方を検討していく。	・保護者との連携を図り、家庭学習の充実を図りたい。

評価基準
A：実践し、効果をあげることができた。
B：実践し、一応の効果をあげることができた。
C：実践し、僅かだが効果をあげることができた。
D：実践したが、効果をあげることができなかった